

次期クリーンセンター整備等検討部会でいただいた意見一覧

次期クリーンセンター整備方針の策定に関して、次期クリーンセンター整備等検討部会で委員からいただいた意見を記載する。
内容によっては一部要約しており、網掛け箇所は資料3別紙で紹介している意見。

会議名	意 見(発言者)	施設整備の基本的な考え方							
		〔1〕	〔2〕	〔3〕	〔4〕	〔5〕	〔6〕	〔7〕	〔8〕
第1回 次期CC部会	資源回収拠点をどのように展開していくかの視点は重要。まち美化事務所を含めた配置バランスを考えておくことが必要。(施策部会・浅利委員)	○							
第1回 次期CC部会	資源回収拠点の視点は、次期クリーンセンターで大型ごみを受け入れるかというところに間接的に関わってくる。今後の脱炭素に向けて、どのような資源を広域的に集めていくのかということも検討してほしい。食品ロス、プラスチックに続いて、衣類、繊維系が今後のターゲットになってくると感じている。量が非常に多く、25%削減目標に向けて市民からの回収方法が検討されている。幅広い資源をどこで回収するのかの整理を行ってほしい。(矢野委員)	○				○			
第1回 次期CC部会	下水処理・し尿処理の広域化の検討が開始されている点を踏まえると、バイオマス有効利用の観点でし尿とごみの合同処理という観点を頭に置いておくほうがいい。し尿の処理量と推移、処理にかかる経費等を確認したほうがいい。下水処理施設の更新時期も念頭に置いておくほうがいい。(笹尾委員)		○	○					
第1回 次期CC部会	食品リサイクルについて、南部CCのバイオガス施設を戦略的に活用できないか。生ごみリッチなごみの優先受入の可能性といった点はきちんと検討しておいた方がよい。(施策部会・浅利委員)		○	○					
第1回 次期CC部会	2030年から2050年にかけて資源循環と脱炭素の取組の加速化が期待され、プラスチックと生ごみの処理を見据えた施設整備をしていくべき。(笹尾委員)		○	○		○			
第1回 次期CC部会	施策の検討にあたっては、全体ごみ量だけでなく、1人当たりのごみ量という観点が必要。資源循環の他の施設しだいで、次期CCで受け入れるごみ質・ごみ量が変わる。(高岡部会長)			○					

会議名	意 見(発言者)	施設整備の基本的な考え方							
		〔1〕	〔2〕	〔3〕	〔4〕	〔5〕	〔6〕	〔7〕	〔8〕
第1回 次期CC部会	脱炭素については、少なくとも新しい技術を導入できるような準備をしていないといけない。後付けで実装するなど、柔軟な考え方が必要である。物理的に導入できるようなスペース等も考えながら整備する必要がある。(高岡部会長)			○					
第1回 次期CC部会	全国的な2050年の想定カロリーの場合、375t/d以上の施設でないと(エネルギー)自立できない試算である。カロリーも含めて規模を見ておいてほしい。資源循環という観点からどのようなものを回収するかによって、焼却するごみのカロリーにも影響してくるので、調査時点ではそのあたりは広く想定しておいてほしい。(高岡部会長)			○					
第1回 次期CC部会	CCUS導入は京都市単独での費用負担は困難であり、広域連携や将来導入を含めて考える方がよい。(施策部会・上原委員)			○					
第1回 次期CC部会	生ごみについてはバイオガス化が理想であるが、生ごみを完全に乾燥させたらどれくらいのごみ減量になるなど、単なる乾燥との費用対効果分析も検討の余地はある。仮に生ごみを完全に乾燥できたとすると概ね5-6万トンの焼却ごみ減量になるといった規模感を意識して検討するのが良い。(施策部会・上原委員)			○					
第1回 次期CC部会	近隣にエネルギー供給を出来ない場合、今回の西部のような山の中で稼働している他のごみ焼却施設がどのようなエネルギー利活用を行っているのか調査をしてほしい。(島田委員)			○					
第1回 次期CC部会	最近の先進的な他都市の施設や技術について、一度整理して、得失を分析しておいた方がよい。(施策部会・浅利委員)			○			○		
第1回 次期CC部会	プラスチックについては資源有効利用促進法の改正の動向、再資源化事業等高度化法に基づく事業系ごみの徴候の変化の動向の確認が重要。(笹尾委員)					○			
第1回 次期CC部会	民間事業者との役割分担を見通すことは難しいという話もあるが、民間事業者の活用はひとつの手である。(高岡部会長)					○			

会議名	意 見(発言者)	施設整備の基本的な考え方							
		〔1〕	〔2〕	〔3〕	〔4〕	〔5〕	〔6〕	〔7〕	〔8〕
第1回 次期CC部会	リサイクル事業者の受入基準などを見直さなければいつまでもリサイクルに回されるプラスチックの量が増えない。一方で異物としてリチウムイオン電池が混入するという問題も抱えているので、分別のやり方は考えていかなければいけない。そこをクリアしないと、変わらず化石由来のものを燃やしていくことになるので、脱炭素という意味でも重要である。(高岡部会長)					○			○
第1回 次期CC部会	AI,IoT等の最新技術の導入を検討する場合は、まだこれからの技術であるので、万能と過信せず、しっかりと調査をすること。既に導入している事例を調査し、導入した場合のメリット・デメリットやトラブル事例等を参考にすること。(島田委員)						○		
第1回 次期CC部会	災害廃棄物によって最終処分場の残余年数が大きく減少することから、災害廃棄物処理計画はしっかりと持っておくこと。(施策部会・上原委員)							○	
第1回 次期CC部会	LIBは消防署でも回収されているとのことだが、資源回収拠点が非常に重要。移動式拠点として活用している学校以外でも、地域の拠点となるような場所でごみの回収をするというような事例を他都市では聞き始めている。クリーンセンターというハード面だけでなく、循環型社会施策推進部会と情報共有を行いながら、資源循環というソフト面についても本部会で協議できたと思っている。(高岡部会長)								○
第1回 次期CC部会	バイオマスプラスチック製容器包装の排出割合の目標設定等に向けて、脱炭素化の効果をモニタリングするための機能が求められる。排ガス中の14Cの分析等、施策の効果をモニタリングする機能について検討してほしい。常時監視が難しければ、ガスのサンプルを取れるように検討してほしい。(矢野委員)								
第1回 次期CC部会	ごみ処理の広域化については非常に大きな影響を受ける。交付金の観点からも広域化は重要なポイントになるので、十分に検討していただきたい。(高岡部会長)								
第1回 次期CC部会	建物として災害が起こった際でも問題ないことはもちろんだが、場所としてアクセス等は問題ないか。西部跡地付近の京都の西部にも活断層が通っていたと認識。災害の観点から問題ないか、交通遮断についてもしっかりと確認してほしい。(水谷委員・高岡部会長)								
第1回 次期CC部会	めぐるプランの目標値でごみ質が決まるが、ハードルが高い目標もあるため、ごみ質に幅を持たせてもよいのでは。(矢野委員)								

会議名	意 見(発言者)	施設整備の基本的な考え方							
		〔1〕	〔2〕	〔3〕	〔4〕	〔5〕	〔6〕	〔7〕	〔8〕
第1回 次期CC部会	施設の便益として、環境影響や生活環境の保全効果、GHG 削減効果など、幅広い効果を見た方が良い。(施策部会・上原委員)								
第1回 次期CC部会	施設整備後のリスク管理、設備更新を含む長期的な視点で施設の維持管理のことも考えて検討することが重要。リスク管理や周辺住民の理解を得るなど、さまざまな障壁を乗り越えて進めていくことの必要性を対外的に示していくことが必要。(島田委員)								
第1回 次期CC部会	場所的には難しいかもしれないが、地域に融和するような機能は不可欠かと思う。エネルギー利用に加えて、環境学習、地域住民にプラスになるような機能やニーズを調査することも検討してほしい。(笹尾委員)								
第1回 次期CC部会	環境学習施設としての機能も、早い段階で検討しておいていただきたい。(施策部会・浅利委員)								
第2回 次期CC部会	(有害ごみや危険物について)資源回収拠点で集めないにしても、全体メニューの中で、有害ごみもそのように回収していることのまとめがあった方がよい。(水谷委員)	○							
第2回 次期CC部会	提案している分散拠点を考慮すると、このフローがどう変化していくのか。あるいはこのフローがどうなればCNに近づくのか、バックキャスト的な観点からも見ていく必要がある。そのような観点も今後「基本的な考え方」を詰めていくうえでは必要である。(高岡部会長)	○							
第2回 次期CC部会	プラスチックの削減取組については「(1)①資源回収の最大化」に含むことでもいいかと思うが、もう少し踏み込んで「(1)④」の項目を新たに追加し、柱として見据えることも検討してほしい。(笹尾委員)	○							
第2回 次期CC部会	資源回収拠点については、京都市の強みでもある各区役所のエコまちステーションとも一体となって検討を進めるのが良い。(施策部会・浅利委員)	○							

会議名	意 見(発言者)	施設整備の基本的な考え方							
		〔1〕	〔2〕	〔3〕	〔4〕	〔5〕	〔6〕	〔7〕	〔8〕
第2回 次期CC部会	地域住民の高齢化が進む中で、資源回収拠点の運用等を考えていく際に地域住民との連携の仕方を改めて検討してはどうか。(施策部会・浅利委員)	○							
第2回 次期CC部会	資源回収拠点について、配置決めは予測による最適化は難しいため、ある程度、いろいろ試しながら更新しても良いと思う。ただし、そのためにどのようなデータを収集しておくべきか丁寧に検討する必要がある。(施策部会・上原委員)	○							
第2回 次期CC部会	「(1)①資源回収の最大化」において、市が場所や道具等を提供するリユース・リペア拠点も重要な公的施設の一つであり、スライド6の資源回収拠点の検討に当たってはリユース・リペア施設も組み合わせて検討していただきたい。(施策部会・山川委員)	○							
第2回 次期CC部会	耐久消費財について、方向性は良いと思うが、具体的にそれぞれどう実施するかは検討が必要。(施策部会・上原委員)	○							
第2回 次期CC部会	その意味では、P.6に示されている小規模拠点と大規模拠点を入れて資源循環を高めていくと同時に、2050年CNは京都市だけで達成できるのか、関西広域連合等でやるのかなど、他都市とも情報交換しながら考えていただきたい。(高岡部会長)	○							
第2回 次期CC部会	小規模拠点・大規模拠点など、様々な資源回収方策を試行する中で、これまでの取組成果や課題も踏まえ、今後何をしていくか検討すると良い。(高岡部会長)	○							
第2回 次期CC部会	その際、誰が運営するのも非常に重要で、これだけの小規模拠点を設置していくのに京都市だけで人を割けるわけもなく、民間にも関わっていただく必要があるので、その点も検討していただく必要がある。(高岡部会長)	○				○			
第2回 次期CC部会	資源回収拠点について、資源循環と脱炭素化を目指しての回収なのか、リチウムイオン電池のように危険性・火災防止のための回収なのか、市民にとってはわかりにくい。今回、目的ごとに整理しているが、今回の整理をもとにして、改めて回収拠点について具体的に議論する際には目的ごとに分業化せずに、どこで何を回収するのか検討する必要がある。(島田委員)	○							○

会議名	意 見(発言者)	施設整備の基本的な考え方							
		〔1〕	〔2〕	〔3〕	〔4〕	〔5〕	〔6〕	〔7〕	〔8〕
第2回 次期CC部会	施設整備の基本的な考え方の1つにリチウムイオン電池対策を入れているのは良いと思う。スライド36において、「拠点回収等により分別排出を促進」とあるが、スライド35のイオンの例にもあるように、排出先の拡充も重要であり、その旨も追記してはどうか。(矢野委員)	○							○
第2回 次期CC部会	リチウムイオン電池対策について、リチウムイオン電池の収集場所は、まだ不十分であり、事故が起こった際の被害額を考えるとより注力しても良いと思う。市内8か所の消防署にもってきてもらうというのはなかなかハードルが高いと思われる。製造者責任の一環として、リチウムイオン電池が使われていることをより明示的に製品に表示するよう、規制を導入するよう、国に要望をしても良いと思う。(施策部会・上原委員)	○							○
第2回 次期CC部会	クリーンセンターでの資源回収について、スライド17でクリーンセンターの「資源回収拠点化」、スライド27で「クリーンセンターの敷地内にストックヤードを整備」が挙げられているが、市民の排出時の利便性を良くすることや、回収した資源を民間事業者に引き渡しやすいよう、あらかじめ施設建設時にそういったスペースを見込んで検討しておくべき。(矢野委員)	○		○		○			
第2回 次期CC部会	「バイオマスの活用(生ごみのバイオガス化)」及び「民間との役割分担」に係る食品リサイクルについて、民間の業者を市内に誘致することを含めて、地域として取組を考えてもよいのではないか。(施策部会・山川委員)		○			○			
第2回 次期CC部会	「(1)③エネルギー回収の最大化(クリーンセンターの脱炭素化)」の機能例で『CCUS(排ガスからのCO2回収・利用)』が挙げられているが、全国的に導入事例が少ないことから慎重に検討すること。(施策部会・山川委員)			○					
第2回 次期CC部会	クリーンセンターの3工場維持については当然かと思う。(島田委員)				○				
第2回 次期CC部会	スライド21において、「クリーンセンター(焼却施設)の3工場体制を維持」とあり、適切と思う。その際には、下段で記載されているとおり「地域バランス」を考慮することが必要である。(矢野委員)				○				
第2回 次期CC部会	プラスチック削減の取組が分散しているという御意見があったとおり、見えづらくなっているように思う。具体的にプラスチックごみの処理フローを示しているのはP.23かと思うが、今後いくつかの施策をやって、どこにどの程度処理を回していくのか、横大路学園や民間を含めて、かなりしっかりと考える必要がある。(高岡部会長)					○			

会議名	意 見(発言者)	施設整備の基本的な考え方							
		〔1〕	〔2〕	〔3〕	〔4〕	〔5〕	〔6〕	〔7〕	〔8〕
第2回 次期CC部会	将来的に広域化について検討する場合は、プラスチック類など、もともとある程度長距離輸送を行っているリサイクルについて、周辺自治体との連携を視野に入れて検討していただければと思う。(施策部会・山川委員)					○			
第2回 次期CC部会	担い手不足のために民間活用することも良いことと思うが、クリーンセンターの管理や運営には経験や技術の伝承をどうするかという課題がある。また、火災などの危険な事象が起こった場合に、民と公の連携が上手くいかずに事故処理に悪影響を及ぼすこともある。民の中でも元請けと下請けの連携についても同様である。官民連携においては、情報共有のシステム、緊急対処体制等を忘れないよう要望する。(島田委員)					○			
第2回 次期CC部会	収集運搬でもよく聞くのだが、人手不足について、他都市事例も調査してIT活用やDXを進めていくべき。(施策部会・浅利委員)						○		
第2回 次期CC部会	新しい技術を導入するにあたり、事例が少ないという話があったが、技術だけでなく仕組みについても、成功事例だけでなく失敗事例も集めて、それぞれのメリット・デメリットを整理して検討することが必要。(島田委員)						○		
第2回 次期CC部会	リチウムイオン電池について、膨張等の不適物の回収については目途が立っていると認識したが、ニッケル系の充電池なども今でも排出されていると思う。市民感覚としてはそもそもリチウムイオン電池との違いも分からないので、ニッケル系の充電池も回収してほしいという声が出ると思う。なので、充電式電池であればすべて回収するほうが良いと思う。その点で、JBRCだけでなく他の処理業者と連携して処理したほうがよい。(笹尾委員)								○
第2回 次期CC部会	生ごみの活用については項目も分けられており分かりやすいが、プラスチックの削減に関しては記述が分散していて、フォーカスされていないように見える。国際プラスチック条約についても議論が再開され、うまくいけばまとまる可能性があり、将来的にはプラスチックの削減というのは様々なところで進むはずである。京都市としてもプラスチック削減の取組は、製品プラ回収も含めて開始しているので、強くアピールされてもよいのではないか。施設整備という観点でも、燃やすごみ中にプラスチックがどの程度入っているかを確認しながら設計を進めると思うので、生ごみと同様に焦点を当ててもいいと思う。(笹尾委員)								
第2回 次期CC部会	本当にこの考え方で2050年CNの途中を描けているのかは再検討が必要。まだ2050年までの話ではないのかもしれないが、2050年という話になれば、本当にCNですよねという話に必ずなるので、そこはよく検討を。(高岡部会長)								